Akita University

# 巻頭言

世話人　竹内芳男

本学会は会員数において最小規模かもしれませんが，発足以来今日まで7年間にわたっての活動の成果はまことに大きいものと思われます。昨年度の年会において協議された教育課程改定の要望と提案は，他のそれらと比べて，その和見のすぐれていること，提案内容の妥当性は高く評価されつつあります。また年報に掲載される論文が号を重ねるごとに水準が高まり，数も増加していることは，広く識者の認めることであります。

資金その他の面で本学会の年報の印刷の体裁と発行部数の僅少さとのため，広く同学の人の目にとまりにくいことはまことに残念であります。何らかの方法でもっと多くの人びとに，年報のすぐれた論文を読んでもらいたいと思うのは私ばかりではないでしょう。そのためにも，斯学界の研究論文を広くコミュニケートする情報センターの設置が望まれるところです。

ところで提案ですが，著者には別刷を僅かしか差し上げられませんので，著者ご自身でご自分の論文を多数コピーしていただき，できるだけ多くの識者にご送付いただきたいのです。あるいはそれが機縁となって，本学会の会員がふえることになるかもしれません。

話しは変りますが，今年の秋山形で日数教論文発表会が開かれます。この機会に本学会の力量を大いに示したいものです。また本学会を大いに宣伝したいものです。

（1976年3月）